

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出				評価者	政策部長
施策内容	今後の人口減少を視野に、ICT技術等の導入による行財政のスリム化と、コンパクトシティを考慮した施設の統廃合による公共施設の継続性をもった適正管理を進めます。 また、未利用町有地を町民主体の運営組織による独創的で柔軟な活用を進めることで、自然の魅力を感じられ、多世代が気軽に集える新たな魅力となる場を創出します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	公共施設再配置	良好	有効だった	未耐震地域集会施設の耐震診断を行った。	
	2	財産管理経費	適当	有効だった	未耐震地域集会施設の耐震診断を行った。	
	3	東大果樹園跡地活用事業 ● 推進交付金対象事業	適当	有効とは言えない	コロナの影響に伴い、イベントが予定通り実施できなかった。	
	4	新庁舎整備事業	良好	有効だった	ワークショップ等により意見を聴取し、基本計画を策定した。	
	5	行政改革の推進（まちづくり総合調整事業）	適当	有効だった	次期行政改革大綱を総合計画に包含する方向性を確認した。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	公共施設の総延床面積（㎡）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	68,729.08	68,590.24	68,451.40	68,312.57	D
	実績		68,729.08	68,729.08	－	
	分析	総論については異論は出ないものの、個別施設の各論では、調整に時間を要している。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	年少人口（15歳未満）の転入人数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	143	160	170	180	A
	実績		123	171	－	
	分析	計画値を達成しており、取り組みは良好といえる。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	東大果樹園跡地を活用したイベントの実施数（回）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	0	10	15	20	D
	実績		2	5	－	
	分析	コロナの影響により予定通りのイベントが開催できていない。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）④	指標名	耐震未確認の地域集会施設数（施設）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	9	3	3	0	A
	実績		3	3	－	
	分析	計画通り取り組みが進んでおり、未確認施設についても将来の方向性を確認できている。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・未耐震地域集会施設について必要な耐震診断を実施し、将来の方向性を確認した。 ・新庁舎並びに駅周辺のまちづくりについて、新庁舎・駅周辺公共施設再編計画を策定した。 ・東大果樹園跡地では、みらいはらっぱ事業がスタートした。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 公共施設再配置・町有地有効活用実施計画の進捗を確認し、見直しをする必要がある。 ② 東京大学果樹園跡地活用協議会、みらいはらっぱ活用事業者、行政の3者の連携。 ③ ホテル跡地を含めたラディアン周辺に行政機能を集約した将来の姿を示す必要性がある。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ① 新庁舎・駅周辺公共施設再編計画、小中一貫教育推進計画の反映と時点修正。 ② 広く町民に知って活用してもらうため、広報に努める。 ③ 果樹公園跡地の用地交渉と、行政機能を集約した基本設計に向けた仕様の整理。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 耐震未確認の地域集会施設数などの目標値を概ね達成している点は評価できるが、庁舎を含む公共施設は町民全体のライフラインの要であり、一部施設の耐震性などに課題が生じ、現状は、町民にとって大きな不安材料となっている。公共施設は、災害時の拠点としての役割も有することから、新庁舎を含む公共施設の再編は町民との合意形成に努めながら、責任を持って前に進める必要がある。 ● 東大果樹園跡地は、みらいはらっぱ事業のスタートによる良い影響の期待はあるが、未だ限られた団体の活用が多いように感じられるところであり、手薄になっている中高生へのアプローチ方法の検討をはじめ、誰もが気軽に利用できるような環境の整備を進める必要がある。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域で支えあう体制の構築		評価者	健康福祉部長		
施策内容	人口減少・少子高齢化の進展により、地域本来の支えあい機能が薄れる中、社会的弱者となりうる高齢者や障がい者が健やかに地域で自立した生活を送れるよう、多世代がかかわることで、地域で支えあう体制を構築します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	地域介護予防活動支援事業	適当	有効とは言えない	コロナ禍により、地域の通いの場が予定どおり実施できなかった。	
	2	生活支援体制整備事業	適当	有効だった	協議体において担い手の課題など話し合いが進んだ。	
	3	認知症総合支援事業	適当	有効だった	認知症サポーター養成講座を中学生や町職員に拡大実施した。	
	4	在宅障がい者援護事業	良好	有効とは言えない	コロナ禍により、手話講習会を縮小して実施した。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	地域の通いの場の参加者（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	13,617 (7,000) ※（ ）はコロナ想定	3,500	5,000	7,500	B
	実績		2,253	4,033	－	
	分析	コロナ禍により地域の通いの場の中止となった時期があり、計画値を下回っている。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	65歳以上の要介護認定者の割合				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	17.6	16.0	16.1	16.7	B
	実績		16.7	17.1	－	
	分析	計画値を上回っているが、基準値（県の値）よりは低い状況を維持している。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	認知症サポーター養成講座受講者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	109	30	200	200	A
	実績		35	552	－	
	分析	認知症サポーター養成講座の拡大実施により、計画値を大きく上回っている。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標 (KPI) ④	指標名	手話通訳者養成講習会の参加者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	22(10) ※（ ）はコロナ想定	16	18	20	D
	実績		コロナに伴い中止	7		
	分析	コロナ禍により手話通訳者養成講習会を縮小して実施したため、計画値を下回っている。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を中学生や役場職員等にも拡大実施し認知症への理解を進めるとともに、福祉有償運送運転者講習の開催など担い手の育成に取り組んだ。 ・地域の通いの場合はコロナの感染状況をみて短時間や屋外開催など工夫して開催した。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢化が進む中で見守りや支援について更に検討が必要である ②地域で支え合うための担い手が不足してきている。 			
	改善点 (課題番号に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①シルバー緊急通報システムの改善など、見守り体制の強化を進める。 ②地域包括ケア推進に向け、講座や啓発等を通して担い手の確保、育成を図る。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●すべてを行政が行うということではなく、これまで地域で行ってきた伝統や慣習による相互扶助をあらためて見直すこととし、地域が活動主体となりつつ、行政はそのような地域活動の提案や支援をするなど、更なる活用の可能性を探っていく必要がある。また、コロナ禍で制限されている活動については、制限が無くなった際に円滑に再開されるようにすることが肝心である。 ●手話通訳に関して、大人に対する理解のための働きかけはもちろんだが、小中学校での授業に取り入れれたり部活動を創設したりするなど、若い世代が触れる環境を整え、伝えていく必要がある。 ●認知症ケア（改善ツール）としての対面会話AIや手話通訳をサポートするアプリなど、福祉的な補助機能を持ったICT技術を、ICT戦略の一環として導入することも考えられるのではないかな。 ●地域の通いの場や講習会の参加者は計画値を下回っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響を考えれば理解できる範囲である。今後は、地域包括ケアシステムの構築に関連する町民向け調査の結果も踏まえ、施策を進めて行く必要がある。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域コミュニティの醸成支援		評価者	政策部長		
施策内容	人口減少・少子高齢化の進展に伴い、地域組織の機能縮小が危惧される中、地域の魅力の創出や地域事業の見直し、地域組織の再編検討などにより、自主的な地域組織の強化を支援します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	地域再生事業	適当	有効だった	一色小学校区地域再生協議会は自立した団体として活動を継続。	
	2	町民活動推進事業	適当	有効だった	ステップアップ支援については十分な活用が図られた。	
	3	防災訓練・自主防災組織育成事業	適当	有効だった	各種訓練・研修会、講演会を実施した（回数はコロナで減）。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	住み続けたいと思う一色小学校区内住民の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	79.6	82.6	84.6	86.0	A
	実績		80.0	87.7	－	
	分析	計画値を達成しており、取り組みは良好といえる。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	地域活動に参加している人の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	26.5	27.0	27.5	28.0	A
	実績		29.5	32.0	－	
	分析	計画値を達成しており、取り組みは良好といえる。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	消防団員の充足率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	97.4	98.7	100.0	100.0	A
	実績		98.7	100.0	－	
	分析	計画値を達成しており、取り組みは良好といえる。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・一色小学校区地域再生協議会は、地域との連携強化を図り、自立した。 ・ステップアップ補助金は、たくさんの町民活動団体に活用されている。 ・各種訓練、研修、講演会を実施し、住民の防災意識を向上することができた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 一色小学校区以外の地区への展開。 ② スタート支援補助金の活用団体が少ない。 ③ コロナ禍における訓練・研修の在り方の研究。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域生涯学習振興事業補助金の周知を図る。 ② 活動を始めたい団体の支援に努める。 ③ 感染対策に留意しつつ、必要な訓練、研修、講演会を開催する。 			
	評価	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 一色小学校区は、地域再生協議会や地元住民の活動で良好な状態となっているが、このような地域組織の意識や活動は、地区ごとの特徴に応じてアプローチを変える必要があるため、地区活動に対する評価も、地区ごとにKPIを設定するなど評価方法などを考慮する必要がある。 ● 地域の役員や消防団員は、これまでのやり方だけでは人が集まらない状況となっているため、体制の見直しや、幅広い範囲の町民に参加してもらえるような環境づくりをする必要がある。 ● 町民活動推進補助金のスタート支援の活用団体が少ないことから、団体活動を始めるにあたって、どのようなことが課題となっているか把握し、必要な支援策を講じる必要がある。 ● 小学校の統廃合という急激な体制の変化は、登校距離の延長に伴う安全面のリスク増加や新規転入者への対応力の低下など、新たな問題を生じさせる可能性があるため、町の将来像を考えつつ、今後の検討をする必要がある。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる
------	----------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	二宮らしい魅力の創出と発信		評価者	政策部長		
施策内容	海や山といった豊かな自然環境や充実した交通環境など、町の資源を生かした多彩な生き方を選択できる魅力あるライフスタイルを「にのみやLife」として確立し、幅広い機会を活用して町内外に積極的に発信することで、関係人口や定住人口を増やします。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	にのみやLifeプロモーション事業	良好	有効だった	移住相談会の開催等により、転入者増という成果が出ている。	
	2	文化振興事業	適当	有効だった	感染対策に留意しながら各種事業を実施した。	
	3	観光振興対策経費	適当	有効だった	withコロナを見据えた観光の振興に取り組んだ。	
	4	生涯学習センター管理運営事業	適当	有効だった	大規模改修に向け、特定天井に係る基本設計を実施した。	
	5	図書館運営事業	適当	有効だった	施設休館の際にも、読書ニーズに応える取組を行った。	
	6	公園等維持管理運営経費	適当	有効だった	遊具の安全点検等適切な維持管理を行った。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	町ホームページの「にのみやLife」の閲覧数（回）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	36,323	39,800	43,300	47,000	A
	実績		36,937	44,474	－	
	分析	計画値を達成しており、取り組みは良好といえる。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	ラディアン稼働率（%）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	50.2	30.0	40.0	50.0	A
	実績		29.3	44.4	－	
	分析	計画値を達成しており、取り組みは良好といえる。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	町観光入込客数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	550,860	400,000	560,600	566,000	B
	実績		498,907	497,434	－	
	分析	コロナ禍で基準値を下回っている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン移住相談会が好評で、社会移動数も増加に転じ、順調に推移している。 ・コロナ禍においても、感染対策に留意しながら各種事業を展開することができた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 観光協会の組織力強化。 ② コロナ禍における各種イベント等の展開。 ③ ラディアンの大規模改修、子どもの図書館利用率向上。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ① 観光協会とともに、Withコロナの時代の観光振興策や組織強化について取り組んでいく。 ② Withコロナの時代のイベントの在り方への転換を図る。 ③ 新庁舎・駅周辺公共施設再編計画に基づき、時代に即した魅力向上に取り組む。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 好評とされている町のオンライン移住相談会は、その事業効果を高めるためにも、参加者や移住者のルート分析や動機分析などを行い、相談会への誘導等を強化する必要がある。 ● 町民の関心を高め、町全体で魅力を発信するだけでなく、例えば、町の魅力を知る方をアンバサダーに任命したり、町民以外にも協力を依頼したりするなど、様々な形で町の魅力を発信・拡散・展開する仕組みづくりを行い、広報活動を強化する必要がある。 ● 周辺自治体の成功事例を模倣することはすぐに飽きられてしまうことから、元々ある観光資源の活用や、クリエイティブな提案をしていくことが重要である。また、町を訪れる方のため、観光・文化・教育・医療・子育て環境などの情報に相互誘導できるようなマップ・仕組みづくりを行っていく必要がある。 ● 子どもの図書館利用率の向上について、コロナ禍でラディアンの利用率が低下したことは理解できるが、オンライン活用や少人数活動などの生涯学習の促進とともに何らかの取り組みが必要である。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる
------	----------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	特色ある教育活動の推進	評価者	教育部長			
施策内容	二宮町で進めている小中一貫教育等の特色ある教育活動は、子育て世代の転入も見据えた大きな魅力であるため、さらなる教育内容の充実を図ります。また、教育の質の向上のため、教職員の働き方改革も併せて推進していきます。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1	小中一貫教育研究事業（教育研究所経費）	適当	有効だった	計画策定に向けて、着実に事業推進を行った。	
	2	英語教育推進事業	良好	有効だった	英検の受験者が増加するとともに、取得率も上昇した。	
	3	ICT教育推進事業	適当	有効だった	ICTを活用した授業数が着実に拡大した。	
	4	コミュニティ・スクール運営促進事業	適当	有効だった	コロナ感染状況に応じた中で、コミュニティ・スクールの活性化を促進した。	
	5	地域学校協働活動推進事業	適当	有効だった	コロナ感染状況に対応して、放課後子ども教室等の活動を推進することができた。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	中学3年生の英検3級取得率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	45.8	50.0	50.0	50.0	B
	実績		35.2	42.6		
	分析	計画値の達成に向けて、着実に実績を上げている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	将来に夢や目標を持っている児童生徒の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	75.6	76.1	76.6	77.0	B
	実績		コロナに伴い中止	72.2	－	
	分析	計画値を達成していないものの、一定の成果を挙げている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	放課後子ども教室の参加率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	15.5	16.0	16.5	17.0	A
	実績		19.5	26.9	－	
	分析	コロナウイルスの感染者の状況が落ち着いていた時期に開催したことにより参加者の増につながった。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大による活動の制限に対し、特に児童生徒の学習機会の確保に努めた。 ・円滑かつ迅速なICT環境の整備やコミュニティ・スクールとしての地域の方々の力などにより、児童生徒の生きる力を育む取り組みが進んだ。 			
	課題	①これからの生きる力を育む取り組みとしての小中一貫教育については、計画の策定に向けて、取りまとめを行い着実に推進していく必要がある。			
	改善点 (課題番号 に対応)	①令和4年度の早い時期に計画を策定し、施設分離型小中一貫教育校の準備を整えていく。また、併せて、施設一体型小中一貫教育校についても地域住民、保護者、町民などの参画により様々な角度からの研究をスタートさせていく。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●教育環境の充実、移住の大きな要因となり得ることから、時代の変化に合わせた教育を行うためにKPIの再検討を行うなど、積極的な取り組みが必要である。 ●子どもにとって尊敬や目標の対象となるような、魅力的な大人と接する機会を創出するため、小中学校のプログラムに、社会経験が豊富で見識のある方を講師として招くことも効果的と考える。 ●生涯学習に関する小規模な講座に幅広い年代が関心を持って参加していることから、必要とされる情報を精査し、教育に組み入れていくことができるようにしていく必要がある。 ●子どもたちの文化力、芸術力、生活力、体力などの人生を楽しく過ごすため必要な力を育てる教育の検討を行い、将来に夢や目標を持つ児童生徒数の増加を図るため、教育の特色を考えていくことが重要である。 ●小中一貫教育については、言葉では知っていても、理解を含めた認知度は未だ低いことから、メリットや効果について広報紙などで引き続き説明をしていく必要がある。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	妊娠から子育てまでの切れ目のない支援	評価者	健康福祉部長			
施策内容	少子高齢化や核家族化の進展に伴い、育児不安を抱える保護者が増える中、安心して子育てを楽しめるよう、気軽に相談できる体制や包括的な子育て支援体制等の環境を整えます。また、発達相談を含め、学齢期までの切れ目のない支援体制を整えます。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	子育て世代包括支援事業	良好	有効だった	感染対策を行い訪問や相談など継続して実施した。	
	2	育児発達支援事業	良好	有効だった	コロナ禍においても事業を継続して実施した。	
	3	教育相談・教育支援室事業	良好	有効だった	児童生徒が抱える問題や悩みに、きめ細かな対応ができた。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	乳幼児全戸訪問事業の訪問率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	100	100	100	100	B
	実績		51.7	86.2	－	
	分析	コロナ禍においても可能な限り訪問するとともに、訪問できない場合は電話等により対応した。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	育児について困ったとき、気軽に相談できる人や場がある保護者の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	93.7	94.7	95.7	96.7	A
	実績		91.8	96.8	－	
	分析	コロナ禍においても手法を工夫し町の相談体制を維持しており、計画値も達成できた。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	児童相談員の相談受付回数（回）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	423	448	473	500	A
	実績		335	634	－	
	分析	相談者との信頼関係を築きながらいていないに対応しており、計画値を上回った。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても子育て世代包括支援センター「にのはぐ」の機能を止めることなく、感染対策を行いあかちゃん訪問や乳幼児健診などを継続して実施した。 ・児童相談について、きめ細やかに対応し、切れ目のない支援に取り組んだ。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①児童相談や発達支援などニーズが多様化してきている。 ②ヤングケアラーなど新たな課題への対応が必要となっている。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①関係部署や関係機関との連携を密にし、ニーズに合った支援を進める。 ②ヤングケアラーについての意識啓発をはじめ、連携組織による情報共有や支援に取り組む。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●人口全体や子どもの数の増減を評価するKPIが設定されておらず、KPIの達成・未達成から施策の進捗が判断できないため、もっと予算事業枠に捉われない詳細なKPIを設定するなどの工夫が必要がある。 ●本施策は将来の発展のために重要なものであり、町民の関心も高く、満足度も高いため、継続して取り組んでいく必要がある。 ●ヤングケアラーの子どもは、相談がしたくてもなかなかできない子もいるので、把握の方法や把握した場合の学校などの連携、支援方法を検討する必要がある。 ●KPI①については、電話等のサポートも行っていることから、「訪問率」ではなく「サポート家庭数の割合」に変えることについて検討して欲しい。 ●核家族で初めてのお子様を出産して育てることはとても不安なことなので、町だけでは難しいかもしれないが、SNSなどで24時間対応してくれるセンターがあると心強いと考える。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	仕事と子育ての両立支援	評価者	健康福祉部長			
施策内容	誰もが希望する生活スタイルに合わせ、子育てができる環境を整えることで、子育てをしながら多様な働き方などが選択できるよう支援します。また、この取り組みにより、性別を問わず、個人の希望に沿って子育てや就業等に関われる意識を向上させます。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1	子ども・子育て支援給付経費	適当	有効だった	保育所等で児童の受入を継続して行った。	
	2	子育てサロン及び一時預かり運営事業	良好	有効だった	コロナ禍により一時休館したが、相談、一時預かりは継続した。	
	3	子育て支援対策事業	適当	有効だった	ファミリーサポートセンターで児童の預かりを継続して行った。	
	4	病後児保育事業	良好	有効だった	病後児保育を継続して行った。	
	5	学童保育所維持管理経費	適当	有効だった	学童保育の受入を継続して行った。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	保育園の待機児童数（4月1日現在）（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1	0	0	0	A
	実績		0	0	－	
	分析	計画値である待機児童「0」を達成しており、取り組みは良好である。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	ファミサポまかせて会員数の推移（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	62	65	70	75	A
	実績		65	73	－	
	分析	まかせて会員登録時の講習を受講しやすいカリキュラムに工夫し、登録者数も増加した。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	児童数に対する学童保育所利用者の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	23.6	24.7	25.8	27.0	B
	実績		23.7	23.9	－	
	分析	利用者の割合は計画値を下回ったが、民間学童も含め希望者を受け入れている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・コロナ禍においても感染対策を行い保育所や学童保育を運営するとともに、子育てサロンの一時預かりやファミサポも受け入れを行うなど、継続して子育て支援に取り組んだ。			
	課題	①保育士、学童保育所支援員等の人材確保が課題となっている。			
	改善点 (課題番号 に対応)	①保育士等の処遇改善や、確保に向けた取り組みを行う。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●各KPIの達成状況は概ね良好であり、子育てしながら働きやすい環境がつけられているが、KPIだけでは事業の進捗確認ができない。 ●次期総合戦略を策定する際は、現在の子育て世帯が何を求めているかを整理し、取り組みやプロセスが見える形で組み立てていく必要がある。 ●多子家庭支援や子どもたちが一人でのいる時間が少なくする取り組みなどにより、多くの子どもを安心して育てることができるまちとして認識されれば、転入者の増加につながると思う。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域商工業の活性化	評価者	都市部長			
施策内容	町内の産業の活性化を図るため、商工会等と連携し、起業及び経営支援を行うとともに、地域資源の活用や地域ブランドの育成により、新たな魅力の創出を促進します。また、キャッシュレス決済やコワーキングスペースなど、新しい時代の流れに沿った多様な働き方に対応した環境整備について検討していきます。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	商工業振興対策経費	適当	有効だった	事業継続支援などの補助事業を実施し、事業者を支援した。	
	2	中小企業金融対策事業	適当	有効だった	令和2年度に引き続き事業者支援を推進した。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	起業相談件数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	22	20	20	20	A
	実績		20	30	-	
	分析	計画通り推進できた。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	二宮ブランドの新規認定商品数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	3	3	3	3	D
	実績		0	0	-	
	分析	コロナ禍のため、当該年度の二宮ブランドの認定審査会が開催されなかったことにより実績はなかった。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	中小企業融資件数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	11	30	10	10	A
	実績		20	11	-	
	分析	国の事業継続支援等が実施されたことで前年度より融資件数は減少したが、ほぼ計画どおりの実績があった。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響に対する補助事業（第2弾事業継続支援、プレミアム商品券）を実施し、事業者への支援を図った。 令和2年度に拡充した利子補助制度や信用保証料補助制度は終了したが、引き続き融資総額は維持し、事業支援に努めた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①商工業の活性化については、コロナ禍以前の状況まで回復することは容易でないため、今後も継続的な支援を推進していく必要がある。 ②二宮ブランドは、コロナ禍以前の新規認定件数を維持できるよう事業者との調整が必要である。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①事業者がどのような支援を望んでいるのかニーズを的確に捉え、その上で次なる支援策を実施していく。 ②二宮ブランドについては、商工会及び事業者と連携を図り、新規認定に努める。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●二宮ブランドは、認定されることのメリットを大きく、わかりやすくすることで事業者の認定への意欲を増大させブランド数の充実を図るとともに、玉ねぎや落花生といった地理的な地元の特産品に改めて目を向けたり、近隣自治体と協力して広域的にブランド化を進めたりするなどして、プロモーション方法を検討していく必要がある。 ●KPIは、「申請のための登録者数」や「申請のための相談件数」、「二宮ブランドの認知度」など、認知度をあげるための取り組みを推進するための指標を設定してもよいと考える。 ●現在のKPIがアウトプット指標だけなので、事業の効果を明確にするため、起業支援や経営支援を行った企業から数値の提供を得るなどして、雇用創出数や出荷高、観光消費額などのアウトカム指標を設定するとよい。 			

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域農林業の活性化		評価者	都市部長		
施策内容	食糧の自足だけでなく地域環境の保全の観点からも、農林業に対する取り組みは重要であると認識し、新規就農者の確保や特産物の普及、有害鳥獣対策など、多方面からの支援を実施します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	農業振興事業	適当	有効だった	計画どおり新規就農者の実績を積み上げることができた。	
	2	遊休・荒廃農地対策事業	適当	有効だった	農地の所有者に対して、遊休・荒廃農地の解消に努めるよう促した。	
	3	特産物普及奨励事業（農業再生事業）	適当	有効だった	特産物が拡大しているので、生産量の増大も進めていく。	
	4	有害鳥獣対策事業	適当	有効だった	捕獲頭数は減少したが、被害数は横ばいであり一定の成果があった。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	新規就農者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	2	2	2	2	A
	実績		2	3	-	
	分析	計画通り推進できた。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	町内オリーブの生産量（トン）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1.1	1.5	1.8	2.1	B
	実績		1.09	1.41	-	
	分析	生産量の向上を見込んだが、台風の接近、長雨などの影響により、達成することができなかった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	有害鳥獣の捕獲数（頭）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	57	120	100	100	C
	実績		124	51	-	
	分析	前年度と比較し、捕獲頭数は減少したが、被害数は横ばいであり一定の成果があった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者の確保に努め、計画どおりの実績となった。 遊休・荒廃地の解消を図りつつ、広域防護柵の設置をしたことで前年度と比較し、捕獲頭数は減少したが、被害数は横ばいであり一定の成果があった。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①新規就農者の確保を含め、農業の担い手不足は深刻な問題であり対策が必要となる。 ②オリーブの生産性の向上を図ることが必要である。 ③鳥獣による農業被害は終わりの見えない対策であり、農業者と連携を図り更なる対策が必要となる。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①全国的に担い手が不足しているため、県やJAによる支援策と連携し、引き続き新規就農者の確保に努める。 ②オリーブの高付加価値化を図ることが急務であり、年度末に申請した「地域団体商標登録」の認定に向けて、周知性を高めていく施策を検討していく。 ③町有害鳥獣対策協議会との連携による広域防護柵の設置、町補助金による自主防除の支援のほか、町実施隊の組織強化、県補助金による捕獲奨励により、引き続き鳥獣による農業被害の防止に努める。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●特産品としてオリーブに力を入れるのであれば、知名度や販売数の増加が必要なので、オリーブについての授業や町民活動でオリーブに関連した事業の支援、各家庭での積極的なオリーブの使用促進策を行うなど、町内を挙げて盛り上げていく流れを作る必要がある。 ●二宮で農業を行う上でのアドバンテージを活かした提案をしていくことが重要である。例えば、生産者の顔が見え、さらに距離が近く新鮮な野菜を届けることができるのは二宮で農業を行うことの付加価値となり得る。こういったことをしっかりと発信していくことが重要である。 ●有害鳥獣のKPIは、捕獲数ではなく農業被害の有無が重要であることから、KPIを「有害鳥獣による被害数」など、見直しを検討する必要がある。 ●例えば、近年取り組みが進むスマート農業のテスト地として場所を提供するなど、積極的に遊休地等の活用の取り組みを進める必要がある。また、このような取り組みを通じて町の魅力を知ってもらえるようにするべきである。 			